

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	水明インターネット句会（選句・選評） 令和六年八月
				光雲2 凡士 みづる 田猫	土璃 光雲2		瞳人 ありぎりす 風子 京子		六弦		洋三 榎舟 のり子 朝香	蛩のまま あらか 佳月	月を	月を	
いくつもの住処巡らす蜘蛛の糸	犬の顔眼の前にあり昼寝覚め	カレンダー予定溢れて八月尽	沢水のみぞそば入りて出づるなり	露天湯の頭上に探す秋北斗 類想がありそうだが、句はのびやかさがある。星座を探しながら大自然の中の自分の存在と対峙している。秋の澄んだ空気。満天の星空。心身が洗われる。	吹かるるままに八月の蝉骸 破調、季重なりが気になるが、夏の終わりの裏寂しさがよく出ている。	稲の殿有無を言はせず闇を斬る	地図たどる指先パリは秋めいて もう一度行ってみたいけれど。思い出の地でもあるのでしょうか？地図をなぞるとそこはパリ。モントランの「枯葉」が聞こえて来そう。指先からパリの秋を感じる感性が良いです。	AIに委ねて良いか遠花火	秋めくや結び目固く割烹着 秋の日の凜とした雰囲気がありますね。	頬染める色なき風よときめきよ	八月のひかりのなかの千羽鶴 原爆投下、終戦やお盆の他に不幸な事故もありました。平和・安全を願いたいです。8月の明るさと願いの鶴の対比がいい。八月は戦没者の慰霊の月。中七下五の措辞が秀逸。	風鈴の眠りを覚ます子供かな 風鈴に手を伸ばす娘の姿や笑顔と重なりました。風がないので動かない風鈴を手で鳴らす様を「風鈴の眠りを覚ます」と表現したところが秀逸だと思います。	向日葵や夜の素顔は天へ向け 向日葵への慈愛を感じます。励ましかも知れませんが。	夏着からのぞく寝顔は同じまま 吾子の幼い頃を思い浮かべました。	
いさむ	和田イチ子	おじいちゃん 一号	溝川	龍野ひろし	しんい	俳翁	くるみ	石関六弦	新井のり子	雪待月田猫	河野凡士	鈍幹	光雲2	蛩のまま	

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	水明インターネット句会（選句・選評） 令和六年八月
	允孝	ひろしくるみ ことは 暮風 佳月 鶴城	破れ蓮	幹子		ひろし			楽 たか子 素風 鶴城	ありぎりす 鶴城		一葉 思孝 音允 芳春		のり子	
江ノ電は観光路線カンナ咲く	放棄田の夏草猛る夜風かな <small>夏草は知らないうちにぼうぼうになって手に負えません。ましてや放棄した田であれば想像がつきます。</small>	喰ふて寝てなほ帰省子の無口なり <small>そんなものなのでしょう。きつと御実家の大きな愛に身を委ねていらつしやるのでしよう。年ごろですね。まさにあるある、うまく俳句にしました。</small>	迎え火に行人のする会釈かな <small>「行人のする会釈」がよい。</small>	ねずみ花火向田邦子弹けてる <small>向田邦子の大好ファンです。作品を思い出しました。</small>	亡き妻の櫛の齒欠けて秋立ちぬ	裏路地も天火めきたる大暑かな	天の川星峠から手が届く	遠花火山下清になりたくて	久闊を叙して展墓に草を引く <small>久々の墓参りの情景が自分と重なりいただきました。久しぶりに帰郷し、先祖への墓参り。久闊を叙しての表現が素晴らしいです。久しぶりに帰省しての墓参りであるのか、気持ち伝わる。まさにこれぞ伝統俳句、選された言葉が素晴らしい。</small>	美しき箸の使い手夏料理 <small>箸使いの所作が涼しげな夏料理を芸術的に昇華させた。いかにも夏料理がおいしく感じます。</small>	蜉蝣よ初戦敗退甲子園	流れ星消えたる先を子に問われ <small>供の素直な疑問に答えている親の景が見える。説明しにくい、想像もしないことを無邪気な子供に尋ねられて「はっ」とすることがありますね。私も子どもの時に兄に聞きました。流れた先が知りたいですね。微笑ましくもロマンのある夜の景です。</small>	ふるさとに一振りの風甲子園 <small>一振りの風で高校球児の姿が浮かぶ。</small>	絵夢	
ひろ志	高原ひろし	荒一葉	薫風	瞳人	森佳月	横井あらか	しーしー	網野月を	破れ蓮	檜鼻ことは	かげろう	岡本たか子	木村小麦		

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
	俳翁 瞳人風 マスミ 素風 京子			ことは	楽 瞳人 螢のまま	ひろ志	素風	曆文 マスミ しーしー	あらか	しんい かげろう		暮風 みづる		一葉 破れ蓮
気配見て美人と惑う簾越し	逆縁の吾子を連れ来る瓜の馬 早逝の吾が子への哀しみが句に凝縮されている。連れ来るは乗せ来るはいかかでしょう。来年、また、お出でね、きつとね。「逆縁の吾子」が悲しい。逆縁の深い悲しみ。せめて瓜の馬に乗って来る魂を迎えるしはしの心の安らぎ。寄り添うことしかできない私。忘れ得ない悲しみというものが有る。心に沁みる句です。「連れ来る」より「乗せ来る」でいかがでしょうか。	水澄めり共に目指すは丘の上	虫鳴いて故郷の言葉思い出し	長生きは父を超えたり秋遍路 一年一年を大切に生きたいと思えます。	子等巢立ちカツト西瓜の赤きかな 赤きかなでうまく表現されていると思えました。一つ丸ごと買って足らなかつたのに、皆いなく。賑やかに食べていた大きな西瓜から、小さなカツト西瓜への移り変わりにしみじみとしました。	数独に嵌る窓辺に火取虫	雨粒の宝石の如濃紫陽花 濃紫陽花に掛かる雨が見える。	猫じゃらし悪戯心むくむくと 幾つになつても悪戯心は楽しい。子供は遊びの天才？昔の話かも。猫じゃらしも見ると、悪戯心がむくむく。わかるなあ。穂を持つてチョコチョコとかしたくなります。	蟪蛄の池の水面を漂ひて 。蟪蛄の儂い一生と、蟪蛄に寄生していたのであろう針金虫の前途を思つて切なくなりました。	消印は能登の輪島や翳雲 被災地の復興を願うばかりですが、郷愁を誘う季語が良い。被災地からの手紙の内容を様々想起させる。	野仏に祈りし人の忘れ草	ビールジョッキ今日一日を一気飲み 猛暑の一日の終わりを締めくくる至福の一瞬の実感、字数的にはピアジョッキも。	大空を仰ぎ落蟬忘らるる	踊の輪見やう見まねに加はりぬ つい飛び入りした踊り、見様見真似がリアル。飛び入りした気持ちちが分かる。
孤舟	安田蝸牛	秋谷風舎	安池省三	青木鶴城	朝香	丸山マスミ	幸子	衛	山川充	新曆文	大東暮風	本橋稀香	みずる	松田素風

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	水明インターネット句会（選句・選評） 令和六年八月
				ひろ志	稀香 ありぎりす しーしー	たか子 かげろう		1号	一葉		しーしー 風子 順一	佳月 鈍幹	俳翁 梗舟 順一		
刈草の甘き匂や夕立あと	朝まだき膝かばいつつ茗荷の子	真葛原太郎を縛る母かの子	蝨斯その鬚抜きて放ちたり	早生蜜柑初物の香を慈しむ	白雨打つ高架の鉄は血の匂い たしかに鉄錆は濡れると血の匂いがします。白雨と血の赤の色の対比、嗅覚の効いた句です。鉄を噛めば確かに血の匂いがします。下五が句にリアリティを与えました。血の匂いは鉄の匂いだったのか。	日焼けした球児の頬に光る涙 高校球児でしょう。勝つて涙、負けて涙。何れにしろこれからの彼の人生に大きなプラスになるでしょう。球児の夏の終わりの表現がよい。	台風の中ご先祖送り出す	つり革へやつとの背伸び牽牛花 朝顔のつるが伸び上がるように背が伸びてくる孫を重ねました。	薄タオル掛けられており昼寝覚め オルを掛けてくれる人がいるのは幸せですね。	手花火や終の火玉のひと雫	難解なあなたとキリコ夜の秋 私にはあなたこそキリコの絵です。キリコの絵は解らないが貴方の気持ちはもつと解らないと妻の愚痴。「あなた」とキリコを比較するなんて。意外性と、季語の「夜の秋」の「ハーモニー」を思いました。	千羽鶴一羽も翔べぬ長崎忌 平和の祈りの千羽鶴が大空に舞いあがってくればと。	ゆるキャラの気球流れる花野かな うらかな秋を切り取っている。流れるは流るるに。流るるは移ろふのほらがいかと。子供たちが楽しく遊んでいる光景が目につかびます。ゆるキャラの気球が流れる花野とは素敵だと思いました。	秋あかね田んぼ狭しと飛び回る	
渋谷きいち	佐藤幹子	森下山菜	小林京子	日高道を	霜里	手賀沼亭 ロン山人	総太郎	平野楽	塚本雅洋	岡崎梗舟	岡田芳春	後藤允孝	小林土璃	明陶家	

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	水明インターネット句会（選句・選評） 令和六年八月
あらか 梗舟		土璃 たか子		総太郎		芳春 ひでこ 六弦		絵夢 かげろう	1号	総太郎 洋三			風子	ことは	
通学のバスの親しき休暇明 長い夏休みが終わって二学期が始まるわくわく感を、級友との再会で はなく通学バスに託している点が心憎いです。学友との再会等の喜び が良く分かります。	曲がり道涼しき風ふき上る	月浴びる大棧橋の旅客船 「月浴びる」が効いている。夜景がありありと浮かぶ。横浜港でしよ うか、外国客船が碇泊している。そこに月光が降り注いでいる。光景 が眼に浮かびます。	世界史はあらそひばかり稲光	デイケアに彼女あるらし生身魂 生身魂にふさわしいような高齢になっても、異性に対するあこがれは あるのでしょうか。爺の生誕を詠まれた秀句と思えます。	底紅のたんと咲いた日母逝きぬ くるみ	命より生まれし命天瓜粉 新児の肌の柔らかさや匂いも伝わってきて季語が効果的です。命が 命を産む、当然な事なのに畏敬の念をいただいた。命の繰り返しと季語 が良いですね。	すぐそこのコンビニまでの秋暑の坂 新井のり子	灯籠の銀河が仰ぐスカイツリー 雪待月田猫	夏襟のブルーベリーのスパッタリング 蛍のまま	ワンデーケー小蠅と暮らす夏の夜 鈍幹	借景にアルプスを据ゑチングルマ 光雲2	参道を揺らして進む祭りかな 椿	水中花いつか会へるとけふも咲き 立野音思	静謐の無言館内敗戦日 只管な恋心を造花の水中花に託した所がいじらしい。 ひでこ	

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76
	蛩のまま		曆文 月を	しんい 薫風	きいち くるみ 凡士 みづる 幹子 京子			音思 ひろし 絵夢 六弦		ひでこ	朝香			
朝練の乱取り稽古夏燕	穴あきの靴や爪先夕涼み 穴あき靴を愉快に捉える作者のユーモアを感じました。	氷菓舐めポーズ一枚宥されよ	花カンナ八重歯かわいい妻の笑み 八重歯の奥さん可愛い。若年なら至当ですが、私よりお兄様なら、逆転サヨナラ満塁ホームランです。	八月を想ふ心のそれぞれに 重い月である八月への想い。原爆忌・終戦忌と続く八月ならではの句である。	茗荷の花ひとつその奥またひとつ その通り、茗荷は葉を掻き分けて見つけることが出来るんですね、取ったことがある人はよく分かります。観察の眼が良いですね。ひとつ、ひとつのリフレインのリズムも心地よいです。我家でも、腰をかがめて、朝露、虫に悩まされ、やつと二つ。日陰でヤブミヨウガの可憐な白花を見つけると光が灯ったように感じる、よくみるといくつもの花を咲かせている。「ひとつまたひとつ」のリフレインが素敵、実感があります。茗荷の花の生態をよく見ていると思えます。	離農とは退職転職走りそば	初嵐転職先へ初出勤	群青の海は変はらず終戦日 かつて戦争があったこと、平和は大切であることを思い出させる句になつていますね。永遠に続いてほしい平和を思う。群青の海が戦争の重さを伝えています。	パリの路弾む足元涼新た	夜濯ぎの子の待ちし間のユニフォーム 健康な母と子の関係が見えて楽しい。	秋立つや果汁多めにレモネード レモネードの酸っぱさが爽やかな秋の訪れを感じさせます。	ゆるゆるの祖母の夜船や納骨堂	美容院写る青田とアイステイ	藤の椅子流れる曇や風清か
荒一葉	横井あらか	瞳人	森佳月	破れ蓮	しーしー	網野月を	かげろう	檜鼻ことは	絵夢	岡本たか子	木村小麦	おじいちゃん 一号	いさむ	和田イチ子

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91
	のり子 田猫			土璃			きいち 鈍幹	きいち くるみ		しんい		薫風	暦文 俳翁 光雲2 幹子	順一
しばらくの別れを告げむ秋の蟬	終戦日瓦礫に遊ぶダンゴムシ <small>平和はそここにあり。日本の外では今も続く戦禍。子どもたちが戦地に送られずに遊べる。この平和を未来へという想いに共感。</small>	ナイトクルーズにちゃっかり便乗火取虫	かなかなや朝摘みに行く老農夫	夕霧に溶け入る煙灰小屋（はんや）かな <small>みじみとした、日本の風景がいい。</small>	避暑の宿背流し合ふ野天風呂呂	螢火や釣疎かになりてをり	水平に割り箸啣ふ心太 <small>男は口で啣えて割り箸は割る物です。</small>	御巢鷹や羽根の折れたる秋茜 <small>何年立つても忘れる事の出来ない事故、秋茜の無事を祈るばかり。い ろんな想いでこの大事故の日を思い出します。</small>	いくばくか涼しくなりて夏の月	尺玉の六腑に響く花火かな <small>コロナ禍での我慢が一気に。</small>	泣かないよ夕焼あんな桃色に	白波の湖に猛るや初嵐 <small>「湖に猛る」が効いている。</small>	送り火の消えて五山の闇深む <small>京都御所の池に写る五山の送り火が消えて夏も終わり。句の立ち方が いい。五山に余韻も立ち上がる。大切な人の魂を無事に送った安堵感 と去る夏の郷愁さが感じられる。</small>	笹原に誰か人居る今日の秋 <small>気配を感じたのでしょうか。笹原にある人の気配、そして今日の秋。</small>
秋谷風舎	安池省三	丸山マスマ	朝香	山川充	幸子	衛	本橋稀香	新暦文	大東暮風	ひろ志	みづる	松田素風	薫風	高原ひろし

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	水明インターネット句会（選句・選評） 令和六年八月
允孝 鈍幹 芳春 ひでこ	稀香	凡士						ひろ志 稀香 マスミ		思風朝 音暮朝	破れ蓮 1号	田猫		洋三	
笠とれば眉なきをのこ風の盆 の盆の雰囲気がいいですね。中七の眉なきをのこがいいですね。微笑ましくもロマンのある夜の景です。現代の若者と昔ながらの風の盆の組み合わせが面白い。	人感センサー反応魂迎へ 現代的な機器人感センサーと魂迎への取りあわせに作者の感性を感じる。	フラダンスアニメソングも盆踊 今時の夏祭りは、こんなものなのか、風の盆、徹夜踊りを思い出す。	38度無人の通り蝉しぐれ	甲子園灼熱の地に闘志燃ゆ	ホコ天に人影疎ら片陰り	語り部の「徹子の部屋」や敗戦忌	あかまんま我も古代の外来主	夜食食ぶピエロの前の赤い鼻 赤い鼻を外して夜食を摂っている、深夜食堂の片隅か。和風野菜のごろごろ豚汁におにぎりだ。ピエロの衣装も汚れているが、今日の一日もおおつた。近頃見かけなくなつたピエロが赤い鼻を外し夜食をたべている景は可笑しさと哀しさが混在しています。ピエロも人間。ピエロの象徴の赤い鼻を外しての夕食。そこはかとなし可笑しみと悲しみが共存。	永遠の愛は誓はず涼新た	日の匂ひ潮の匂ひの麦藁帽 夏の海で遊んだあとの帰路を感じさせる句です。上五中七と下五の季語との取り合わせが素晴らしい。	手が足に足が手になる踊笠 阿波踊りであろうか、情景が見える。阿波踊りか？踊り手が目に浮かぶよう。	墓参りひしゃくの先に赤とんぼ お墓に眠る人の魂が、赤とんぼの背に乗って会いに来たのだろうか。	残暑の日でもルンルンと女高生	盆波の寄るや奇跡の一本松	
森下山菜	小林京子	総太郎	霜里	手賀沼亭 ロン山人	岡崎梗舟	平野楽	塚本雅洋	小林土璃	岡田芳春	後藤允孝	安田蝸牛	明陶家	孤舟	青木鶴城	

			132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	水明インターネット句会（選句・選評） 令和六年八月
					絵夢				楽 総太郎						
			トラックに何の機械か秋の池	秋暑し空にUFOと蝉	野の風に御詠歌乗せて秋遍路 <small>音と映像が見事に立ち上がる。</small>	寺の塀蜥蜴走ればホース入れ	いつか死ぬ僕を夏よ連れてゆけ	クサンテイツペと比べて我慢秋夕焼	夏痩せて嫌ひなものも値上がりす <small>嫌いなものまで、が昨今の物価高騰をうまく言い表していると思いません。</small>	思い出はみな遠くあり水中花	月揺らぐひとりぼっちのプールの夜	八月の祈りの日々に白き花	秋雷に戸板のみやげ仕舞けり	結界の先は青空慰霊の日	
			石川順一	卯山理那	染谷風子	石川順一	卯山理那	染谷風子	ひび	椿	立野音思	佐藤幹子	渋谷きいち	日高道を	